

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年10月12日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 「おせっかい」を貫く公務員

消費生活相談員として困窮者に寄り添う

14日(日)



滋賀県野洲(やす)市の市民生活相談課長、生水(しょうず)裕美さん(56)は、ひきこもりや単身高齢者など生活困窮者の支援に力を注いでいます。「おせっかい」を合言葉に、役所の総力を挙げて市民を支えます。

もともと専業主婦でしたが、今ではそのノウハウを国や他の自治体が学ぼうとしています。

どんな姿勢で貧困と向き合い、手を差し伸べていったか——。その姿を追います。筆者は医療福祉部の熊谷豪記者です。



## はたらくα 残業ゼロへの挑戦

くらしナビ面 15日(月)

相次ぐ過労死問題を受け、長時間労働の是正などを目的にした、いわゆる働き方改革関連法が6月、可決・成立しました。残業時間に初めて罰則付きの上限期間が設けられたことが特徴で、大企業は来年4月から、中小企業は2020年4月から適用されます。

働き方を変えたことにより、一足早く「残業ゼロ」を達成した東京都内のIT系中小企業のお話を紹介します。

## 宇宙ビジネスの未来

夕刊特集ワイド 15日(月)

宇宙を舞台にしたビジネスの担い手が次々と現れ、映画や小説などで描かれてきた宇宙旅行も、現実のものになりそうです。

「ニュースペース(新しい宇宙産業)」と呼ばれるこの分野から、目が離せません。

## デジタル 自動翻訳で「言葉の壁」克服

くらしナビ面 16日(火)

2020年東京五輪・パラリンピックまで2年を切りました。日本を訪れる外国人観光客は年々増え続け、昨年は2869万人に上ったそうです。

街を歩いていて外国語で話しかけられたら——。そんな時に便利なのが自動翻訳サービス。

国立研究開発法人「情報通信研究機構(NICT)」は、話しかけると翻訳文を表示し、音声が出るアプリを無料提供しています。

## 「象徴として」第3部～美智子さまの歩み

社会面 17日（水）

来年の代替わりに向けて連載している皇室企画「象徴として」の第3部は、10月20日に84歳の誕生日を迎えられる皇后さまを取り上げます。

国民と苦楽をともにすることを信条とされる天皇陛下には、常に皇后さまが寄り添ってきました。

民間から皇室に入り、陛下を支え続けてきた皇后さまの行動や言動の軌跡、活動の原点を振り返ります。

## ドラフト会議の主役を紹介 25日に都内で開催

「月刊アマ野球」面 18日（木）

プロ野球の新人選手選択（ドラフト）会議が25日、東京都内で開かれます。

注目は第100回記念大会となった今夏の甲子園を沸かせた高校球児たち。春夏連覇を達成した大阪桐蔭高の根尾昂選手と藤原恭大選手、秋田県勢として103年ぶりに決勝へ進出した金足農高のエース・吉田輝星投手らは、どの球団が交渉権を得るのでしょうか。

今月の「月刊アマ野球」面では、大学、社会人も含めて今年のドラフトで指名されることが有力な選手たちを紹介します。

## イチから分かる福島第1原発の汚染水処理

科学面 18日（木）

東京電力福島第1原発事故から7年半がたちました。日々発生する汚染水から大部分の放射性物質を除去したはずの処理水の8割超で、トリチウム以外の放射性物質が国の排出基準濃度以上残っていることが明らかになりました。

東京電力はこれまで、原理的に取り除けないトリチウム以外は基準以下にできると説明してきましたが、その前提が崩れたこととなります。

そもそも福島第1原発の汚染水処理の流れがどうなっていて、どこに問題があったのか。分かりやすい図版を使って解説します。

## 【論点】 新型出生前診断（NIPT）の拡大

### 高まるニーズと、「命の選別」への懸念

オピニオン面 19日（金）

妊婦の血液から胎児の染色体異常の可能性を調べる新型出生前診断（NIPT）の実施拡大を視野に日本産科婦人科学会が指針見直しの本格的な検討を始めました。

国内への導入から5年が過ぎ、検査のニーズは高まっています。一方、「実施を拡大すれば、『命の選別』が『普通のこと』になってしまう」との批判も根強くあります。NIPTはどうあるべきでしょうか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。